

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：53101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2017

課題番号：16K17461

研究課題名(和文) 英検Can-doリストを活用した教科書評価プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of an Application to Evaluate English Textbooks with EIKEN Can-do List

研究代表者

大森 理聡(Omori, Michiaki)

長岡工業高等専門学校・一般教育科・准教授

研究者番号：30707386

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、教科書を効率的、効果的に評価するために、英検Can-do Listに基づいたアプリケーションを開発することを目的とした。教師による試用後にプログラムを改善し実施し教科書評価を簡易にすることができた。この結果から、客観的かつ実用的なプログラムは、学校現場の教師が教科書を効果的に選定する一助となることがわかった。

研究成果の概要(英文)：This research attempted to develop an application with the “EIKEN Can-do List” in a variety of teaching contexts to evaluate English textbooks efficiently and effectively. After trials simulated by some teachers were improved, the applications were used for practical purposes, and the textbook selection method was simplified. This result shows that effective and efficient applications support teachers in selecting specific textbooks.

研究分野：英語教育

キーワード：英語教育 教科書 教科書評価

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は新潟県の公立高等学校の英語科教員として勤務した経験がある。教科書選定の際に、各々の教員が多忙であり、20冊以上ある教科書の難易度や生徒に行わせたい活動、評価方法を精査する時間がなかった。数冊の検定教科書を、時間のない中で読み採択し、意図した通りの教科書ではないこともあった。また、新人の教師としては、選定基準の判断が困難であり、効率的かつ効果的な教科書選定が必要であると感じていた。

教育現場では生徒の外部試験の結果により教師の教科指導力の評価をされることが多い。研究代表者は、外部評価である英検が作成した「Can-do リスト」が教育現場で英語力を向上できると着目し、研究を進めてきた。検定教科書内に「英検 Can-do リスト」と関連するパフォーマンス活動（以下：タスク）が多ければ、生徒の英語運用能力を伸ばすための活動が頻繁に行われると考え、教科書内のタスク数を調査した(田中&大森, 2014)。その結果、教科書内の「書く」タスクと「話す」タスクのほとんどが「英検 Can-do リスト」に相当することがわかり、タスクを授業で定期的実施することで、生徒に英検取得者の技能をイメージさせることが可能であるとわかった。

さらに研究代表者が「英検 Can-do リスト」と教科書採択率との関係を調べると「コミュニケーション英語」の教科書に関して、採択率が高い教科書は「書く」タスクと「話す」タスクが少なく、採択率が低い教科書はタスク数が多い傾向にあった(大森&田中, 2014)。つまり、英語教師は、「書く」「話す」アウトプット型のタスクではなく、「読む」「聞く」インプット型のタスク数を考慮し、教科書の選定をしている可能性があった。教科書を選ぶ時に「英検 Can-do リスト」の4技能のタスク数を基準として採択することで、学習者に適切な難易度の教科書、学習者のレベルに合ったタスクの選択が可能であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、英語教師の教科書評価プロセスの効率化を支援するために「英検 Can-do リスト」を使用した事前教材評価方法の確立を目指すものである。外部試験に関連したタスク数を測定し教科書評価に活用した研究はあまり例がない。

3. 研究の方法

「英検 Can-do リスト」を使用した教科書評価方法の確立を目指すため、本研究は、研究期間を2年間とし、その期間内に以下のプロセスを網羅するものとした。

(1)「コミュニケーション英語」の教科書内の4技能(「読む」「書く」「話す」)のタスク数を調べる。

対象の教科書は、平成25年度発行の「コミュニケーション英語」の高等学校英語検定

教科書である。選定する教科書数が多いと時間と労力が増え、参加者である英語教師の負担がかかり、選定方法が煩雑になってしまうために教科書は10冊とした。2015年度採択時の上位10冊(占有率67.6%)を対象とした(内外教育編集部, 2015)。採用した教科書は表1の通りである。

表1 評価対象検定教科書リスト

教科書名	出版社
All Aboard! Communication English	東書
MY WAY English Communication	三省堂
ELEMENT English Communication	啓林館
Power On Communication English	東書
VISTA English Communication	三省堂
Vivid English Communication	第一
LANDMARK English Communication	啓林館
CROWN English Communication	三省堂
COMET English Communication	数研
BIG DIPPER English Communication	数研

(2)新潟県内の公立・私立高等学校・高等専門学校に勤務する英語科教員に依頼し、教科書評価の予備調査により教科書評価プログラムを改善する。

(3)教科書評価プログラムを高等学校で試用し、評価方法の枠組みやプログラムの内容を検討し完成させる。

(4)(3)で得られたデータを基にベテラン教師と新人教師の教科書選定基準の分析を行う。

・初年度の準備状況

(1)教科書内の3技能(「読む」「書く」「話す」)のタスク数の収集

(2)教科書評価プログラムの作成

研究代表者がFile Maker Pro(FileMaker社製)を使用し、タスク毎に検索できる簡易プログラムを試作した。

・初年度研究計画

(1)タスクのデータを組み込み試作したプログラムを、新潟県内の高等学校・高専英語科教師に試運転してもらい、フィードバックに基づき改善させた。(図1, 2, 3)

図1：初期画面



図2：教科書画面

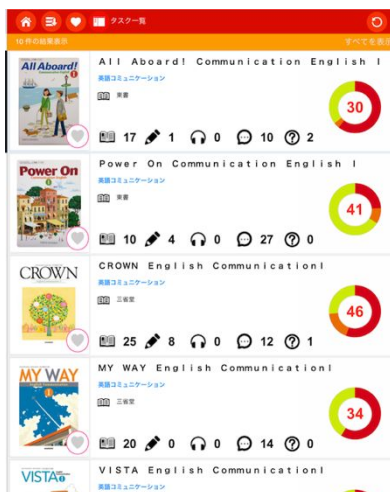
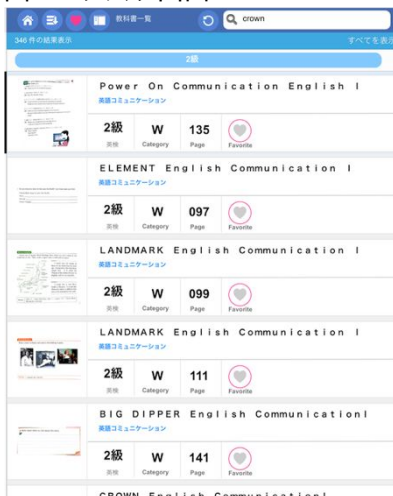


図3：タスク画面



(2)高等学校で改善させた教科書評価プログラムを実施した。新潟県内の高等学校・高専英語科教師に説明、依頼し実施した。学校の職場用コンピューターに許可なくプログラムを入れることはできないので携帯性のあるタブレット機器である iPad を購入し、教科書評価プログラムの実用性の検証を行った。また、実施後にアンケートを行った。

・次年度研究計画

(1)採集されたデータを分析し、概要結果を学会等における発表への準備を行った。

4. 研究成果

本研究は、高等学校教育現場における教科書評価方法を簡易化かつ効果的に行うことを目的とした。

具体的な成果は以下の通りである。

(1)ベテラン教員と若手教員の教科書選定方法について(中部地区英語教育学会長野大会要項)

ベテラン教員は、教科書評価基準を自分の中に持っており、学校のレベルや教科書評価を支援するプログラムに依存しない傾向がある。また、若手教員は、学校のレベルにより、教科書評価が困難であり、教科書を選定する支援プログラムの影響を受けやすい傾向がある。

(2)スピーキング活動を重視する教師について(日本デジタル教科書学会第6回年次大会(東京大会)発表予稿集)

スピーキング活動を重視する教師は、スピーキングタスクの多い教科書を選ぶ傾向があった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 なし

〔学会発表〕(計2件)

1. 大森理聡，外部試験を活用した英語教科書選定プログラムの開発，日本デジタル教科書学会第6回年次大会(東京大会)発表予稿集，pp.11-12，2017.
2. 大森理聡，英検 Can-do リストを活用した教科書評価について，第47回中部地区英語教育学会長野大会要項，p.64，2017.

〔図書〕なし

〔産業財産権〕なし

出願状況 なし

取得状況 なし

〔その他〕

ホームページ等 なし

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

大森 理聡 (OMORI, Michiaki)

長岡工業高等専門学校・一般教育科・准教授

研究者番号：30707386

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者 なし